

ゆ た 湯立て行事



5月中頃の日曜日、田村市と郡山市にまたがる鞍掛山の中腹にある山津見神社（船引町芦沢）で、五穀豊穰、豊蚕祈願、家内安全を祈願する行事が「湯立て」です。

神社境内中央に笹竹を四方に立て、しめ縄をはり、真ん中に釜を置いて湯を沸かし、供物の前で神官が祝詞をあげます。その後で笹束を湯に浸し、湯玉を氏子へ振りかけ、玉串を捧げて行事は終了。湯に浸した笹は氏子宅へ配られ、神棚などにあげ護符とします。

くわしい由来等についてはよくわかりませんが、明治18(1885)年にはおこなわれていたとされ、明治期の養蚕奨励ともあいまって、養蚕農家による「火伏せ」（養蚕で火を使うため）の願掛けのために湯立ての行事がはじまったものと推測されます。

時代の変遷で、氏子内に養蚕をおこなう家はなくなってしまいましたが、湯立て行事は五穀豊穰、家内安全の願いを込め継続されています。



①神官による祝詞奏上。神官は代々鹿島大神宮（郡山市西田町）の渡辺氏が務め、お湯立ての行事をおこないます。



②沸いたお湯の中に米と塩を入れ、幣束で右に1回、左に1回、右に1回と湯をかき回します。



③笹束をお湯に浸します。笹は行事早朝に切ったものを使い、1束24本を3束準備します。



④湯玉を振りかけます。往時は氏子が総出で参加していましたが、現在は講主、社総代、世話人らが参加しています。



⑤講主、社総代、世話人の順に玉串を捧げ、湯立ての行事は終了です。終了後には神社社殿内で直会がおこなわれます。



⑥湯に浸した笹は、社総代、世話人によって氏子宅（約30戸）に配られ、神棚などにあげられます。